



情報ステーション

しろやま



～今年はレインボーブリッジと国会議事堂へ～

夏休み恒例宿泊体験



▲国会議事堂前でパチリ



▲レインボーブリッジを皆で歩きました

翌日、国会議事堂見学。「一度入りたかった」と参加した中学生が7人。議場で活発に質問し、「将来は・・・」と思わせる場面もありました。

城子連恒例の宿泊体験学習を猛暑の8月6日(土)・7日(日))に行いました。

初日メインのレインボーブリッジ1.7kmを歩いて渡りました。海辺の風が涼しく、通行の車に手を振って子どもたちは元気いっぱい。

東京オリンピック記念青少年センターに宿泊。(冷房が入っていてホッ)



秋晴れのもと、いい汗かきました —城山地区体育祭開催される—

第56回城山地区体育祭が、10月9日(日)城山中学校校庭で開催されました。さわやかな秋晴れの下、22町会が参加し、小学生町内対抗リレーや城山競輪、綱引き、買い物競争、町内対抗リレーなど20種目で熱戦が繰り広げられました。また、昼休みのアトラクションで中央小ジュニアクラブによる“よさこい”が壮大に披露され、その他、子どもたちによる“竹馬に挑戦”があり、親子によるほほえましい光景が見られました。

体育祭の得点は、18年度(第51回)までは計算機による集計でしたが、最後の種目を終了してから計算集計まで約40分位かかり、閉会式には各自治会撤収清掃を終え、参加する人数も大変少なく閑散とした中での閉会式でした。

第52回大会からパソコンを導入し、町内対抗リレーが終了してすぐ閉会式を行う様にした為、全自治会が参加し、熱戦の余韻が冷めぬ内に成績発表・表彰が実施できるようになりました。

なお、今回の成績は最後の町内対抗が終わるまで1位・2位・3位の順位が分からない接戦で総合得点の差はわずか1点でした。優勝は古賀志自治会、準優勝は東駒生自治会、3位は田野自治会となりました。

体協事務局 広瀬 忠徳



▲開会式



◀足並みそろえて



▲競輪選手も顔負け



▲一致団結

文化祭・農業祭



▲模擬店のようす

秋晴れの11月12日(土)、13日(日)、城山地区晩秋の風物詩「文化祭・農業祭」が今年も“里の秋”の風景が目の前に広がる城山地区市民センターで開かれました。

今年度は、作品展会場に「自治会コーナー」を設けて、自治会会員自慢の作品を出展して頂くようにしたこと、また、次年度以降の運営の参考にしようと、お客様に祭りの印象をアンケート形式でお尋ねすることにしました。

祭りの中心の13日、会場は採れたて野菜・果物コーナーのねぎや大根、果物等両手に抱えきれないほどの買い物をして、帰って行かれるお客様をワンサと見かける盛況ぶりで、模擬店も含めて売り切れが続出。うれしい悲鳴でした。

また、学習室・ホールでは、サークル活動の成果発表が行われ、作品展・アトラクションとも大勢のお客様で賑わいました。作品展では自治会コーナーの出展作品が展示に花を添え、アトラクションでは宮郷暁東さんの二胡の生演奏が、憂いに満ちた音色を響かせて、会場を柔らかく包んでくれました。

お客様、運営スタッフとも終日秋色に染まった「文化祭・農業祭」でした。

アンケートの結果はまだですが、次年度に繋がる素晴らしいお答えを聞かせていただけるのではと、大いに期待しております。

城山地区コミュニティ協議会事務局 小林 輝



▲農業祭



▲作品展



◀ホール部門発表

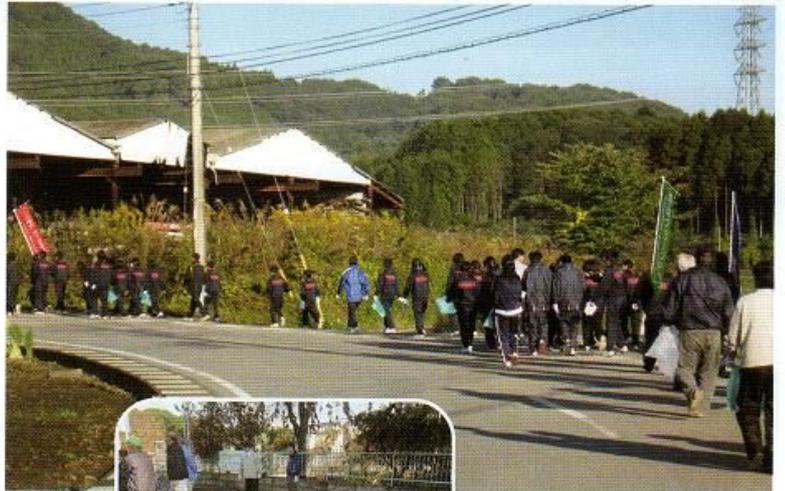


きれいなふるさとを!!

城山クリーンアップ2011

8年目を迎えた城山クリーンアップは、城山中生徒を中心に、PTAや自治会の方などを含めて約400人の参加がありました。今年も地域の皆様のご協力により、充実した清掃活動を行うことができました。

1年生にとっては初めての活動で、慣れない手つきでしたが、先輩たちの姿を見ながら除草やゴミ拾いをしました。2年生は、昨年の経験を生かして、積極的に活動しました。3年生はさすがに手際も良く、リーダーシップを発揮しながら、最後の城山クリーンアップに取り組んでいました。



▲こんなに集まりました



▲いざ出陣



▲除草作業中

私たち城山中の生徒は、これからも「ふるさと城山」をきれいにするように努力していきたいと思っています。皆様も、「みんなできれいに、住みよい城山」に、ご協力をお願いいたします。

城山中学校生徒会長 石川京樹

大谷景観公園を中心にフェスタin大谷2011を開催



▲出店がたくさん



▲舞台では発表が……

10月29日(土)、30日(日)、さわやかな秋空のもと、大谷景観公園を中心に“フェスタin大谷2011”が開催されました。

大谷景観公園の特設ステージでは、お囃子やよさこいソーラン、大道芸ショーなどが繰り広げられ、地元の大谷石を使った細工加工・工作体験も行われました。地元からたくさんのお店もあり、にぎやかな2日間となりました。

29日夜にはナイトジャズも行われ、多くのジャズファンが集まり、石あかり隊の石灯ろうの幻想的な光が花を添えました。

秋の那須平成の森を散策



▲参加者全員です

10月30日(日)女性11名、男性5名と体協関係者3名の総勢19名で、紅葉の那須平成の森をウォーキングしました。日光国立公園内にある那須御用邸の敷地の約半分が、宮内庁から環境省へ今年5月に移管され【那須平成の森】としてオープンしました。敷地560ha。人が立ち入らず自然の生態系が残された森に、ミズナラやコナラなどの広葉樹林が広がり、余笹

川や白戸川の清流の音が谷から聞こえてくる森林浴コースです。

今回、那須平成の森フィールドセンターのネイチャーガイド菅原遊さんに同行していただき、学びの森コース2時間30分の探索に出発しました。熊のフンや爪痕など、自然と生命についての丁寧なお話、菅原さんのまじめな人柄が感じられ、楽しく歩くことができました。ビジターセンター出発前の注意事項では、特別な区域への配慮として自然の生態系を維持するために、ガイドウォークも1日4組60名に制限していると伺いました。

説明の中でなるほどと思ったことは、キツツキ(啄木鳥)の森での役割です。森の中で家を作る大工だそうで、掘った巣穴は、自ら巣穴を掘ることが出来ない樹洞巣種の鳥(シジュウカラ、キビタキなど)に再利用され、小鳥だけではなくムササビやモモンガその他の昆虫も利用するなど、生態系の要の役割を果たす種(キーストーン種)と位置づけられているそうで、他にも沢山の関心感動の説明がありました。

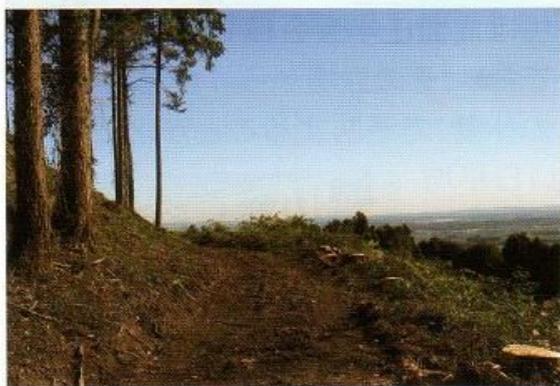
紅葉の森の中を元気に歩くことは、明日への活力とリフレッシュした気持ちになれることを実感しました。満足な道案内はできませんでしたが、参加者にはたくさんの笑顔を送っていただきありがとうございました。皆様、大変お疲れ様でした。

(城山体協山岳部長 安達高志)



▲ネイチャーガイドの話に耳を傾けて

多気山頂、眺望確保へ



▲見晴らしが良くなりました

平成22年8月のまちづくり懇談会において、市長に対し地域代表意見として多気山頂の整備を提言しましたが、いよいよ山頂の眺望確保に向けた樹木伐採がはじまりました。

およそ30年前、山頂は360度のパノラマが開けていましたが、植栽により杉や檜が成長し、どこも見渡すことができませんでした。今回の伐採により日光連山や宇都宮市内はもとより、条件を整えば遠く富士山まで拝することができそうです。

現在、多気山参道は植栽の取組などによりアジサイやつつじの名所ともなっています。今後はこれまでの参拝や観光に加え、健康づくりのためのウォーキングや遠足のコースとしての利用も期待されています。

なお、12月1日には多気山頂を目指し城山東小学校の全校遠足が行われました。

東京で農産物などPR



都心で城山地区をPR。JAうつのみや城山支所や城山地区農産加工会など地区内の農業関係団体は、10月30日(日)、市観光コンベンション協会、清原地区の諸団体と共に都内で開催された日本橋京橋まつりに参加し、農産物販売や観光PRを行いました。

イベントへの参加は3年連続となりますが、日本橋架橋100周年の今年は「東北に元気を日本に活気を」をスローガンに例年以上の盛り上がりとなり“農業王国宇都宮”と城山地区の認知度アップを図りました。

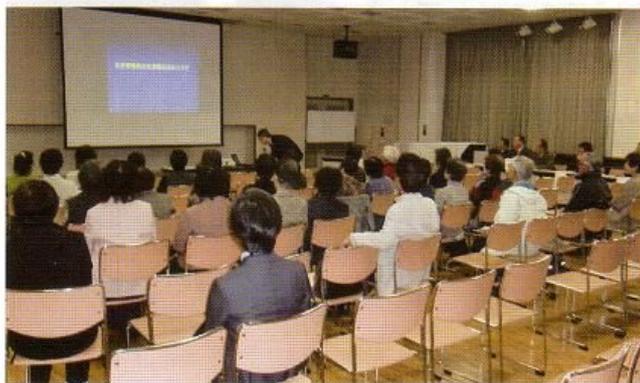


▲ たくさんの人出で賑わいました



▲ 城山農産物をPR

第1回 福祉まつりを開催



▲ 生活習慣病予防について

11月20日(日)、城山地区市民センターにおいて“第1回福祉まつり”が開催されました。

血圧測定、武田内科クリニック武田茂幸院長による「生活習慣病について」の講話、宮郷暁東さんによる二胡の演奏やオカリーナ響によるオカリーナの演奏が行われました。

武田先生は高血圧学会会員で高血圧治療を専門としており、その立場から、「食生活・運動・心と身体の休養」で予防することが必要で、具

体的に高血圧がもたらすリスクや1日の塩分摂取(日本人は1日平均11g摂取しているが6g以内にする)に関すること、1日30分歩くなど身近な生活習慣を見直して生活習慣病を予防する方法をわかりやすくお話いただきました。また、地元の宮郷さん、オカリーナ響の皆さんの演奏で心身ともに心洗われる一時でした。

午前中は、地区内の福祉協力員を対象とした研修会も開催され、佐野短期大学山田昇教授をお招きして「福祉協力員活動の展開」と題したお話を伺い、オール福祉デーの一日でした。



▲ 二胡の演奏にうっとり

城山地区から1個人・1団体へ感謝状、1団体へ特別感謝状 (宇都宮市清掃事業協力者表彰)



▲古賀志山清掃登山実行委員会に感謝状



▲城西ニュータウンに特別感謝状

9月25日(日)もったいないフェアにおいて、本市の清掃奉仕活動に顕著な功績のあった団体、個人として、古賀志山清掃登山実行委員会、東駒生自治会の五十嵐恒夫さんに「感謝状」が贈られました。

また、城西ニュータウン自治会には、感謝状受賞後も引き続き清掃活動を継続し、他の模範となっているとして「特別感謝状」が贈られました。

防犯協会城山支部の地域安全活動を表彰



▲防犯協会表彰

日頃の地域安全活動が評価され、防犯協会城山支部が、県警察本部長、県防犯協会会長連名で表彰されました。

年間を通じた防犯パトロール活動や年末年始の夜警、毎年実施している地元城山中学校の生徒を対象にした防犯標語コンクールなどの地域の防犯に対する意識の高揚を図る活動で、城山地区の生活安全に取り組んでいます。

センターからのお知らせ

福島県の地方新聞の閲覧ができます

福島県から宇都宮市内に避難されている方々への情報提供として、地方新聞(福島民報、福島民友)を市内の地区市民センター、図書館等に閲覧用に配置しています。城山地区市民センターでも閲覧できますので、ご利用ください。(この業務は福島県災害対策本部に協力して実施しています。)

山城としての多氣山(その5)

多氣城(多氣山城)は、戦国時代の末期(天正11~17)に、孤立無援となった「宇都宮国綱」が後北条氏(小田原の北条氏康+氏邦)に、仲間に入れといわれても、唯一秀吉側に付いて頑張った根拠地です。※ここは、毎年6月になると城山中央小の6年生を案内するコースです。

薬研掘りのところで、『頂上の方に背を向けて掘りをつくり、土手を築きます』と説明してから、次は水飲み場を案内します。それから「七曲り坂」を登るのです。五番・六番のカーブに差し掛かると進行方向右手に見落としそうな最初の土塁が東西方向にあるので、「殿様が近くにいるので、防御設備が厳重になります。」と予告をしておきます。七曲りが終了すると、踏み分け道が北に向かって一直線になります。私も六年前まではね管理用の山道としてしか考えていなかったところでした。ここから急なぼり坂になります。70~100mぐらい先に殿様の陣地があるのです。ここまで敵方が攻め上ってきたら最後の力をふりしぼって戦う地点です。防塁は三段の土塁が構築されています。昔の寸法で五尺、十尺、二十尺(1.5—3.0—6.0m)と倍々の寸法で計画的につくられたことがわかりました。このことは私が強い関心をもって三年前に計測したのでわかったのです。また、伝令の通り道も綺麗にのこっています。三段目の土塁をすぎ御殿平の手前で急に左手に曲がる平坦な道があります。これを半周しますと、現在【アズマヤ】のある後ろ側まで幅3mほどの「武者走り」があったことがわかります。味方しか解からない通路を駆け上ってきて、いちいち戦況を殿様にお知らせしていたわけですね。殿様はここに座っていて伝令と物見櫓からの情報とで味方の勝負の流れを総合的に判断していたわけですね。現在、桃畑茶屋の前の【市営の無料駐車場】は二段になっていますが、昔はそのまま【出郭(でくるわ)】の場所だったのです。

宇都宮市文化財解説・観光ガイド 永森 庄仁

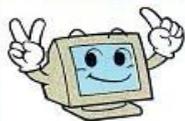
編集後記

先日、全国スポーツ・レクリエーション祭が栃木県で開催されました。そのボランティアとして、ある会場の駐車場係を担当しました。全国各地から車で参加する選手、役員の方を駐車場に誘導するのが役目です。朝来場する際には「おはようございます」、帰りには「ご苦労さん」、最終日には「気をつけてお帰り下さい」と全員に声をかけ

ていました。しかし、地元栃木県の選手からは、挨拶はほとんどありません。他県選手からは、わざわざ窓を開けて笑顔で「ご苦労さん」と答えてくれます。疲れが飛んでいくような感じがします。挨拶は人間が社会生活をおくる上での潤滑油の役目をします。挨拶の大切さを痛切に感じた3日間でした。

広報部 川鍋

城山地区ホームページが楽しい!



「情報ステーションしろやま」の創刊号(1号)から最新号までを収録しております。是非ご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www2.ucatv.ne.jp/~shiro333/>

城山地区の人口(平成23年11月末日現在)

- 総世帯数 9,205世帯 ●総人口 23,313人
- 男: 11,478人 女: 11,835人

編集・発行

城山地区コミュニティ協議会



〒321-0345 宇都宮市大谷町1059番地5
宇都宮市城山地区市民センター内
TEL 028-652-4794 FAX 028-652-5570